青い目の人形「アリス人形」

わたしはアリス

わたしの名前はアリス

わたしの名前は，Ａｌｉｃｅ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ（アリス・ジョンストン）です。神領小学校の子どもたちや地域の皆さんから「アリスちゃん」と呼ばれ，親しまれています。

生まれは，アメリカ，身長は 38ｃｍ・体重 800ｇ，うつぶせにすると「ママー」と泣きます。１９２７年（昭和２年）に，この学校へ来ました。

海を越えて

大正の終わり頃，移民問題で日本とアメリカの関係が悪くなりました。それを心配した親日家のギューリック博士がアメリカ全土の人々に呼びかけ，日本の子どもたちに人形を贈り，仲良くなろうと計画しました。その呼びかけに，12739 体の人形が集まりました。はるばる太平洋を越え，横浜の港に着き，全国の幼稚園や小学校に配られました。その中のひとり（一体）が，わたしアリスです。

命びろい

わたしがこの学校に来てからしばらくして，とても悲しい出来事が起こりました。日本とアメリカとの戦争が始まったのです。アメリカから一緒に来た，たくさんの仲間（人形）は，敵の国の人形として焼きはらわれたり，壊されたりしました。でも，わたしは，一人の優しい女の先生（阿部ミツエ先生）の手で押し入れに隠され，命を助けられたのです。

それから，ずいぶん長い間，わたしは暗い押し入れの中で眠っていました。

目が覚めて

長い眠りから目が覚めたのは，昭和４８年頃です。あるテレビ番組でわたしの友達が紹介されてからです。その話を聞いた阿部ミツエ先生は，神領小学校にも「青い目の人形」があることを話しました。そして，みんなでわたしを見つけ出してくれました。全国各地で見つかったわたしの仲間と一緒に日本中を回ったり，また，親善使節としてアメリカへも行きました。

お母さんは，どこ？

わたしに添えられていてパスポートを手がかりに，わたしのお母さん（贈り主）捜しが始まりました。パスポートに書かれていた住所のウィルキンスバーグ市の市長さんや地元新聞社の協力で，ついにわたしのお母さんがわかりました。その人の名前は，アリス・ジョンストンさん。残念なことに，すでに亡くなっていました。生前，アリス・ジョンストンさんは小学校の先生をしていたそうです。

故郷アメリカへ

お母さんがわかってから，わたしを故郷アメリカへ里帰りさせようと，「アリス里帰り推進委員会」が結成されました。平成３年８月，３１名の一行と共に懐かしい故郷のアメリカ　ウィルキンスバーグへ里帰りすることが出来ました。

わたしが日本へ旅立ってから，実に６４年ぶりのことでした。

平和な日々

「青い目の人形」たちは，もうほとんど残っていなくて，およそ１２０００体もあった人形は，およそ３００体にまで減っていました。

あの悲しい時代を越えて，やっと生き残った人形は，徳島県には，今はもう，わたしだけとなってしまいました。

わたしは毎日，子どもたちの様子を見守っています。入学式や卒業式には，子どもたちと一緒に，式に出席しています。

平成２２年７月から２ヶ月間，アメリカから里帰りした徳島ゆかりの人形「ミス徳島」と共に，わたしは徳島県立博物館で平和の尊さを考えてもらおうとたくさんの人に会いました。

わたしは，いま，子どもたちの笑顔を眺めながら思います。

世界の子どもたちが，平和で幸せな毎日が送れますように。

そして，

わたしが経験した悲しい戦争など

二度と起こしてはならないと・・・